

草津川跡地利用基本構想(素案)

平成 23 年 1 月

草 津 市

第1章 草津川跡地を取り巻く現況 1**1-1 草津川跡地の概要 2****1-2 旧草津川の歴史 4**

江戸時代 4

明治・大正時代 4

昭和・平成 4

1-3 人口・世帯数の状況 5

1) 草津市全域の人口・世帯数の推移 5

2) 草津川跡地沿いの人口・世帯数の推移 5

1-4 交通施設の状況 6**1-5 市街化の状況 6**

1) 都市計画公園 6

2) 避難所 7

3) 用途指定 7

4) 指定文化財等 7

1-6 自然環境・景観の状況 9**第2章 構想の位置づけ 10****2-1 これまでの経緯 11**

河川改修の経緯 11

草津川跡地の利用計画策定の検討経緯 11

暫定利用に関する経緯 12

2-2 上位・関連計画との関係 13

草津川廃川敷地整備基本計画 13

第5次草津市総合計画 14

草津市都市計画マスタープラン 16

第2次草津市緑の基本計画 17

草津市地域防災計画 17

目次

第3章 草津川跡地利用の基本条件 18

3-1 土地所有区分 19

- 1) 土地所有区分 19
- 2) 暫定利用 21

3-2 現況特性の整理と課題 24

- 1) 現況特性の整理 24
- 2) 区間毎の特性と課題 25
 - 区間①（湖岸道路～メロン街道） 25
 - 区間②（メロン街道～浜街道） 28
 - 区間③（浜街道～大津湖南幹線） 31
 - 区間④（大津湖南幹線～JR 琵琶湖線） 34
 - 区間⑤（JR 琵琶湖線～国道1号） 37
 - 区間⑥（国道1号～JR 東海道新幹線） 40

3-3 市民ニーズの把握 43

- 1) 調査の概要 43
- 2) アンケート結果にみる市民意識 44
 - 現在の草津川跡地の利用目的 44
 - 草津川跡地の堤防に関する意識 44
 - 今後の草津川跡地整備のあり方について 45

3-4 社会的ニーズの把握 46

- 余暇活動参加率 46
- 余暇に求める楽しみ・目的の変化 46

第4章 草津川跡地利用基本構想 47

4-1 草津川跡地利用基本構想の趣旨 48

4-2 草津川跡地利用の基本方針 48

- 1) 4つの基本機能 48
- 2) 草津川跡地の整備のねらい 49
- 3) 3つのゾーンと6つの区間 53
- 4) 各ゾーンを縦断する機能 54
 - 琵琶湖と市街地を結ぶ緑軸 54
 - 防災機能の強化 54
 - 交通機能の強化 55

4-3 草津川跡地利用基本構想 58

- 1) 区間① 58
- 2) 区間② 61
- 3) 区間③ 64
- 4) 区間④ 67
- 5) 区間⑤ 70
- 6) 区間⑥ 73

第5章 構想の実現に向けて 76**5-1 計画的な事業推進 77****5-2 継続的な検討の実施 78**

| | |
|-------------|----|
| 事業の推進手法の検討 | 78 |
| 市民との協働や参画 | 78 |
| 民間活力の活用 | 79 |
| 国やJR西日本との調整 | 79 |
| 堤外民有地との調整など | 79 |
| 事業の財源確保 | 79 |

5-3 実現に向けての留意事項 80

| | |
|-----------------------|----|
| 1) 防災施設の導入検討 | 80 |
| 草津川河川防災ステーションとの連携 | 80 |
| 2) 観光・交流拠点としての導入施設の検討 | 81 |
| 魅力向上のための施設の導入検討 | 81 |
| 駐車場の導入検討 | 81 |
| 3) 環境との共生に向けた導入施設の検討 | 82 |
| 環境との共生をリードする場 | 82 |
| 人と自然とのふれあいの場 | 82 |
| 農の緑としての活用 | 82 |
| 4) 堤体の構造的な保全の検討 | 83 |
| 堤体保全のプラス面とマイナス面 | 83 |
| 堤体保全の検討 | 83 |
| 法面の処理方法 | 83 |
| 5) 周辺関連施設の整備 | 84 |
| 草津川跡地への | |
| アクセス路などの道路整備の検討 | 84 |
| 周辺施設との一体整備の推進 | 84 |
| 草津川跡地と連携した回遊性の創出 | 84 |
| 6) コスト縮減の検討 | 85 |
| 暫定活用との整合 | 85 |
| 運土収支計画 | 85 |
| 民間資本の活用 | 85 |
| 7) 地域コミュニティの醸成 | 85 |
| 市民の交流や地域コミュニティの醸成 | 85 |
| 8) 栗東市との調整 | 85 |

